

～文化財と遺跡を歩く～
京都歴史散策マップ



発行 京都市・(公財)京都市埋蔵文化財研究所

西陣 相国寺 下鴨周辺の発掘調査

この地区は京都市内の上京区と北区、左京区にまたがっています。烏丸今出川交差点の北東には足利義満によって室町時代に創建された相国寺(相国承天禅寺)があります。相国寺旧境内の発掘調査では創建期の建物跡や水路・道路・石垣跡などが発見され、往時の境内の様子の一端が明らかになっています。飛鳥時代の建物跡のほか平安時代から鎌倉時代の溝跡や土坑なども発見され、相国寺創建以前から人々が暮らしていたことがわかりました。堀川通東側の上京区北部と北区南部あたりは、平安京遷都以前には「出雲郷」と称されていた地域で、相国寺と賀茂川の間は出雲路を冠した町名が残っています。また、出雲氏の氏寺とされる出雲寺跡には平安京造営後に御霊神社が創建されました。烏丸通の西側一帯には、足利義満によって造営された「室町殿(花の御所)」があり、付近には公家と武家の屋敷などが建てられ市街地が形成された上京遺跡があります。室町殿跡の発掘調査では庭園の庭石や築山などが検出されています。下鴨地区には、鴨(賀茂)川と高野川の合流地点北側に史跡賀茂御祖神社(下鴨神社)境内が位置しています。境内では、これまでに20次を超える発掘調査が行われ、平安時代後期の斎場跡や祭祀に用いられた土器などが見つかっています。

7 出雲寺跡

出雲寺は出雲氏の氏寺であったと考えられています。寺域の南半は御霊神社境内にあたり、北半は鞍馬口通りと推定されています。神社境内では昭和11年(1936)に御霊神社参集所の建設工事中、古墳時代から近世までの遺物とともに、白鳳時代から平安時代の軒瓦が多く見つかりました。軒瓦の中には神社から北西にあたる地区西賀茂の蟹ヶ坂瓦窯(白鳳時代)で作られた軒丸瓦や平瓦などがありました。それらの瓦は出雲寺の建物に用いるため、鴨(賀茂)川を利用して運搬されました。



出雲寺跡推定寺域の南半にあたる御霊神社



境内で採集された瓦片(御霊神社蔵)

1～4 上京遺跡

上京遺跡は、室町幕府の御所である「室町殿」や公家の邸宅、武家屋敷が建ち並ぶ中世の都市遺跡です。東は相国寺境内、西は智恵光院通、南は一条通、北は上御堂(かみごりょう)前通に囲まれた範囲です。2010年の堀川通西側の発掘調査では、室町時代と江戸時代の溝跡や井戸跡が発見され土器や瓦も多量に見つかり、絵図史料などから本阿弥家所領地とみられています。室町殿跡では、1989年の発掘調査で庭石を伴う庭園跡や建物跡などが発見されています。2013年の上京区総合庁舎改築に伴う発掘調査では、元和6年(1620)にあった火災後の廃棄用に掘られた穴や室町時代の溝跡などが発見されました。江戸時代初めの絵図や古文獻から、調査区北側は武家の屋敷跡とみられています。

1 本阿弥家所領地跡



室町時代から江戸時代の柱穴や溝跡

2 武家地跡



江戸時代初期の遺構のようす

8～10 史跡 賀茂御祖神社(下鴨神社) 境内

下鴨神社は正式名を「賀茂御祖神社」といいます。境内は平安京の北東に位置し、社殿は奈良の小川の北東、瀬見の小川の西にあたります。糺(ただす)の森を含む境内は、1983年に国の史跡に指定され、さらに1994年世界遺産に登録されました。2000・2001年に発掘調査が行われ、現在の奈良の小川から南約12mの位置(8)で、旧奈良の小川が見つかりました。下鴨神社に伝わる時代が異なる二枚の古絵図から、現在の奈良の小川は江戸時代に付け替えられたもので、発掘調査により平安時代後期以前には、ほぼ直線的に流れる人工の川であったことが明らかになりました。小川跡の中からは平安時代から江戸時代の土師器皿の他に、平安時代後期の銭貨と江戸時代の鏡や鈴などの祭祀に使われたものが見つかりました。この小川両岸には、平安時代後期から桃山時代の石が敷かれた遺構や石組などが発見されました。これは糺(けがれ)を洗い流す、禊(みそぎ)などの祭場跡であったと考えられます(9)。2009年には本殿南東部に位置する船島(ふなしま)の発掘調査が行われ、島の上で行われた儀式に用いられたとみられる平安時代後期の白色土器が多量に見つかっています(10)。



境内と川の位置

3 旧奈良の小川跡



見つかった旧奈良の小川(東から)

2 武家地跡



室町時代の溝跡 火災後の廃棄処分の穴

3 室町殿跡



発見された庭園跡の一部

4 室町殿跡



景石を伴う庭園跡と建物跡(手前の石が景石)



旧奈良の小川から出土した遺物
左/平安時代後期の中国製の銭貨
右/江戸時代の鏡(上)と鈴(下)

9 祭場跡



禊などが行われた土壇下の石敷跡



祭事のための石組跡

5 6 相国寺旧境内

相国寺は永徳2年(1382)将軍足利義満によって発願され、室町殿の東側に10年後の明徳3年(1392)に完成しました。しかし、創建以来六度に及ぶ焼亡と再建を繰り返したことから、境内の伽藍配置や塔頭地割りなど、全容が明らかに記録された絵図は、天明8年(1788)に作成された『寛政二年戊戌九月塔頭敷地図』(相国寺蔵)が初見です。旧境内の発掘調査は現在までに数多く行われており、これまでに創建期から江戸時代の建物跡や井戸跡、溝跡、堀跡などが見つかり、境内のようすが明らかになりました。最近行われた相国寺境内の発掘調査では、飛鳥時代から奈良時代の建物跡や溝跡なども発見されており、平安京造営以前の出雲郷にかかわる遺跡として注目されます。

5 旧境内北西部



相国寺旧境内北西部での発掘調査のようす



戦国時代の堀跡

10 船島



船島の発掘調査のようす

6 旧境内北東部



桃山時代の建物跡



飛鳥時代の竪穴建物の集落跡



鉄製品を生産した道具や鉄くずも見つかった竪穴建物跡



船島から見つかった平安時代後期の白色土器



資料提供：公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

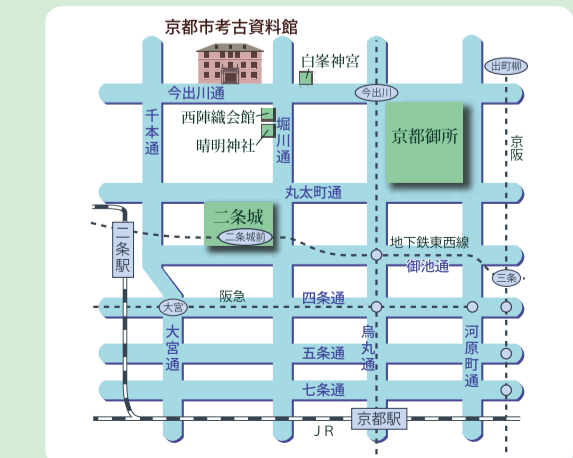
京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東元入伊佐町265-1
TEL.075-432-3245 FAX.075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)
開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄丸丸線「今出川駅」下車徒歩15分
バス201・203・59系統「今出川大宮」下車すぐ



西陣 相国寺 下鴨

京都市考古資料館の周辺一帯は、応仁・文明の乱の西陣のあった地域です。西陣の地名は高級絹織物のブランド名にもなっています。また、東の「花の御所」あたりに東陣がおかれ、御霊神社や相国寺はその合戦の地の一つでした。そして、同志社大学今出川校地の敷地の一角には、幕末の時期に公家町、歌道の冷泉家、薩摩藩邸もありました。このマップは古い歴史を持つ賀茂(鴨)氏と関係が深い下鴨神社周辺と、応仁・文明の乱ゆかりの室町殿跡、相国寺、御霊神社界隈を紹介しています。近年、発掘調査が数多く行われたこの地域の歴史を探究してみてください。

応仁・文明の乱 (1467~77)

御霊神社付近の森での合戦が発端と伝わります。背景には室町幕府将軍足利義政の世継ぎ問題や、管領畠山・斯波(しば)両家の家督紛争などがありました。幕府の権威失墜もあり、守護大名細川と山名の勢力が対立して京の町は約11年に及ぶ内乱の地となりました。

■年表

1467年	応仁・文明の乱はじまる(両畠山軍の衝突) 細川軍「花の御所」占領 山名軍堀川の西へ布陣 大内政弘軍入京	市街戦始まる 公家・僧ら 地方に逃れる
1469年	戦局の中心が地方へ拡大	
1473年	山名持豊(宗全) 3月没 細川勝元 5月没 足利義尚 9代将軍となる	
1477年	応仁・文明の乱終わる(両軍諸將、自国に帰る)	

山名宗全邸宅跡

守護大名山名持豊(宗全)が日野富子やその子(義尚)を擁立して、西に陣を張ったことから、この辺りを「西陣」と呼ぶようになりました。この石標は山名邸跡を示すものです。なお、「山名町」はこの邸宅に因みます。



どとどしそせき 百々橋の礎石

「百々橋」を隔てて東軍と西軍が幾度も合戦を行いました。昭和38年まであった石橋は洛西ニュータウンの竹林公園内に移され復元されました。四石の礎石のうち一石は室町小学校の校庭に、一石は小川通沿い百々橋跡地に残されています。



相国寺

臨済宗相国寺派大本山。第三代将軍足利義満が開基(1392年)、開山は夢窓疎石(むそうそせき)です。京都五山の第二位に列し、足利将軍家や伏見宮家および桂宮家ゆかりの禅寺です。鹿苑寺(金閣寺)、慈照寺(銀閣寺)など山内外に多くの塔頭をもち、法堂(重要文化財)の「蟠龍図(ばんりゅうず)」は鳴龍として知られています。境内には「承天閣(しょうてんかく)美術館」があり伊藤若冲の絵画などを展示しています。



御霊神社

早良親王(さわらしんのう)ほか七柱を祀る神社です。平安遷都以前からこの地一帯に勢力を持った出雲氏の氏寺・出雲寺の鎮守社として創祀されたともいわれます。御霊の森が広がる当地での管領畠山氏の内紛が応仁・文明の乱の発端となったことでも知られています。五月には洛中最古の祭りの一つで悪疫退散の御霊会(ごりょうえ)に始まるという「御霊祭」が行われます。



【世界遺産】賀茂御祖神社(下鴨神社)

古くよりこの地に祀られ、平安時代から王城鎮護の社として、式年遷宮や斎王の制度などが定められた特別な神社でした。史跡賀茂御祖神社境内には「糺の森」が広がり、国宝の本殿2棟や53棟の重要文化財社殿が並び、世界遺産に登録されています。「賀茂祭(まけまつり)」では優雅な王朝絵巻が再現されます。土用の丑の日に行う「御手洗祭(おてわしまつり)」も有名です。



糺の森

史跡下鴨神社境内にある糺の森には御手洗川・泉川・奈良の小川・瀬見の小川の4つの川が流れています。原生林の植生をよく残し、祭祀・神宮寺・池跡なども見ることができます。



にしじんおいかん 西陣織会館

世界に誇る日本の和装の美「西陣織」を知って、体験して、楽しんでもらうための施設です。前身は今出川大宮東にある西陣織物館(現 京都市考古資料館)で、西陣五百年記念事業として1976年に移転しました。着物ショーをはじめ、製織実演、展示即売が行われ、歴史的に貴重な織物類を資料室に展示しています。



花の御所とは

1378年に室町幕府第三代将軍 足利義満が造営した広大な邸宅です。四季折々の花木が植えられた庭園の美しさから「花の御所」とも呼ばれました。室町通付近にあったことから「室町殿」「室町御所」とも呼ばれ、第八代将軍 義政までは将軍邸として、また応仁・文明の乱では東軍の拠点とされました。



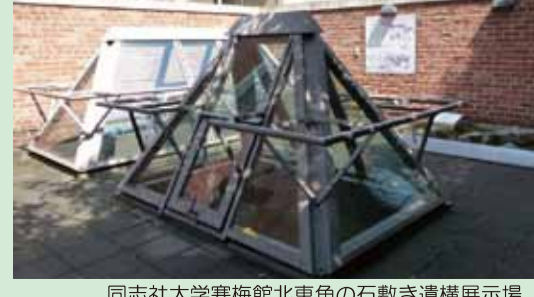
だいしょうじもんざき おてらごしよ 大聖寺門跡(御寺御所)

大聖寺は、御寺御所とも呼ばれる臨済宗相国寺派門跡尼院です。境内は室町時代の花の御所跡の一面といわれ、「花乃御所」という石標があります。1697年に明正天皇御所の材料を移して作られた庭園(非公開)は市指定名勝です。



むらまぢのいしじ いこう 室町殿石敷き遺構

同志社大学寒梅館建設に伴う発掘調査(2002年)で発見された室町時代後期の石敷き遺構が、調査された同じ場所(校地の北東角)に保存されており、いつでも見学することができます。



このえいあつと 近衛邸跡

京都御苑内にある近衛家の邸宅跡です。現在庭園池の一部が残り、花見時期には糸桜などの枝垂桜が非常に美しく大勢の人々にぎわいます。



にしょうけいあつと 二條家邸跡

歌道宗匠家(御子左流)の二條家邸跡です。現在は同志社女子大学今出川校舎敷地の一部になっています。



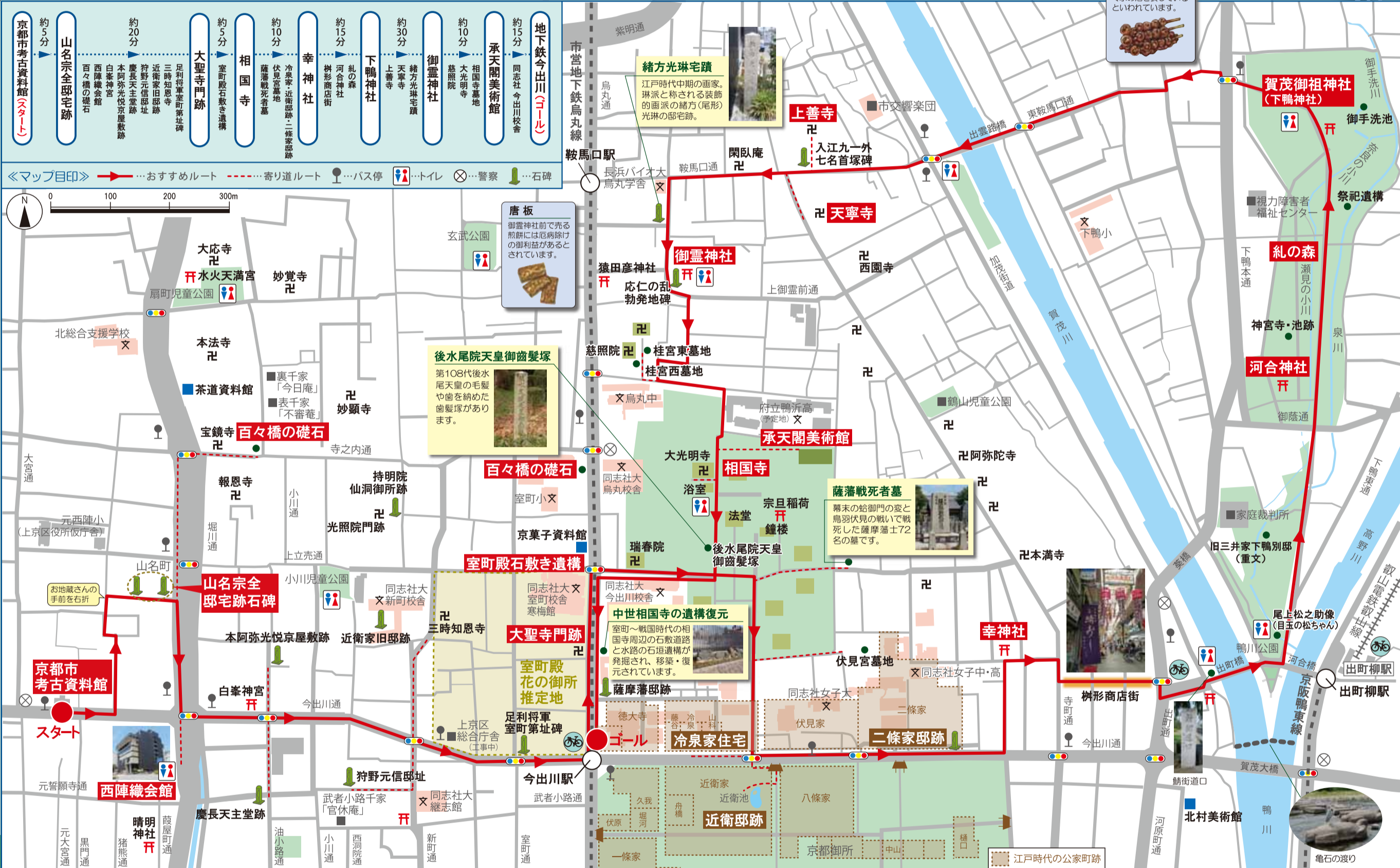
れいせいけいじゅうたく 冷泉家住宅

御子左家(みこひだりけ)の分家で、冷泉流歌道を伝承しています。冷泉家住宅(重要文化財)は1790年に建てられ、現存する最古の公家住宅です。



さいのかみのやしら 幸神社

猿田彦神を主祭神とし、交通安全の神として信仰されています。平安京の鬼門にあたり、平安時代初期に愛宕(おたぎ)郡下出雲郷に道祖神を祀ったものといわれています。猿の木像や猿田彦神石を安置しています。



かわいじんじよ 河合神社

下鴨神社の第一摂社です。『方丈記』の著者である鴨長明(かもちょうめい)ゆかりの神社と伝わり、境内には資料館と「方丈の神」(復元)があります。



しょうせんじ 上善寺

863年に僧円仁が天台宗密教の道場として創建、1594年に当地に移り、のちに浄土宗に改宗しました。京都六地藏めぐりの一つで地藏堂安置の「深泥池(みどろがけ)地藏」は洛北深泥池畔から移したものです。



てんがいじ 天寧寺

書洞宗の寺。天正年間(1573~92年)に、会津城下から移転されたと伝わり、金森宗和(かなもりそうわ)、剣道示現流開祖 普吉和尚(せんきつおしょう)らの墓があります。山門の「額縁門」は東方の比叡山を借景としています。



さいのかみのやしら 幸神社

猿田彦神を主祭神とし、交通安全の神として信仰されています。平安京の鬼門にあたり、平安時代初期に愛宕(おたぎ)郡下出雲郷に道祖神を祀ったものといわれています。猿の木像や猿田彦神石を安置しています。

